

1. 胚培養により育成したユリ新品種‘ カリステ’（情報）			
[要約]			
シンテッポウユリにカサブランカを交配して子房培養および胚培養により育成した‘ カリステ’は大輪の純白でりん片挿し苗や極小球でも1年で開花する。			
研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277

[背景・ねらい]

シンテッポウユリは種子繁殖が可能で種苗費は少ないが、花形及び花色は決まっている。一方、花形及び花色の豊富なオリエンタル系ユリは、球根養成に数年の栽培を必要とするため、球根の価格が高い。そこで、シンテッポウユリとオリエンタル系ユリとを胚培養を用いて交雑し、球根養成期間が短く、既存の品種にない花色や花形を持つ新品種を育成する。これまでに‘アフロ’をはじめとする4品種を育成した。今回は純白の花を育成する。

[成果の概要・特徴]

1. 育成経過

平成5年7月に子房親シンテッポウユリ（品種 中生あさま）と花粉親カサブランカを交配した。同年8月に肥大子房を培養し、9月に培養子房から胚を摘出して培養した。平成6年6月に生育個体を鉢上げしたところ、平成7年7月9日に初開花した。平成8年度にりん片苗の1年開花性を確認し、平成9年～15年度に栽培試験を行った。

2. 品種特性

- (1) 場内で10月球根定植の雨よけ栽培では、6月下旬に咲く中生種である。
- (2) 花は横向きの大輪種(20～22cm)で、花色は純白である。
- (3) カサブランカの花弁表面に見られる乳状突起がなく、花弁は厚くて乱れが少ない。
- (4) りん片挿し苗や極小球でも1年で開花し、球根養成の必要がない。

3. 市場評価

- (1) 花色、花の大きさ、花弁の厚さは良好であり、花弁の形も丸弁で優れている。
- (2) 葉色が鮮やかな緑で、花色との対比が良い。
- (3) 大輪での出荷が望ましい。

[成果の活用面・留意点]

1. ‘アフロ’と同じ栽培が可能であり、球根栽培、りん片挿し栽培とも季咲き作型では良好な切り花が得られる。
2. アブラムシ、ネダニ、キノコバエ、乾腐病の防除を徹底する。
3. 到花日数が長くなるので球根促成栽培には適していない。
4. 品種登録を申請中である。
5. 全農岡山で予約販売する。

[具体的データ]

表 1. カリステとアルテミス及びアフロの特性

系統名	開花時期	草丈	茎丈	茎径	茎色	葉数	葉序	葉型
カリステ(球根)	6月下旬	133cm	111cm	7.7mm	緑	42	3/8	長卵形
カリステ(りん片)	7月初旬	155	135	5.3	緑	43	3/8	長卵形
アルテミス(球根)	6月下旬	98	83	6.1	緑	37	3/8	長楕円形
アルテミス(りん片)	7月初旬	141	114	6.0	緑	29	3/8	長楕円形
アフロ(球根)	6月上旬	164	140	7.7	緑	67	3/8	広披針形
アフロ(りん片)	6月中旬	121	98	5.0	緑	38	3/8	広披針形

系統名	花径	花弁長	花首長	花形	花の向	花色	斑点	輪数	花序
カリステ(球根)	20 cm	17.1cm	8.5cm	ヤマユリ型	横～斜上	純白	無	3	散形花序
カリステ(りん片)	17	14.2	5.5	ヤマユリ型	横～斜上	純白	無	2	散形花序
アルテミス(球根)	22	14.8	7.5	ヤマユリ型	斜上	白に紅筋	無	3	散形花序
アルテミス(りん片)	18	13.0	7.0	ヤマユリ型	横～斜上	白に紅筋	無	5	散形花序
アフロ(球根)	24	16.2	10.0	ヤマユリ型	斜上	ピンク	無	5	散形花序
アフロ(りん片)	19	15.0	8.0	ヤマユリ型	横～斜上	ピンク	無	5	散形花序

山陽町で、無加温雨よけ栽培した。



図 1. カリステ

[その他]

試験研究課題・事業名：バイオテクノロジー利用による地域特産品種の育成とクローン
種苗大量増殖法の確立

予算区分：県単

研究期間：昭和 60 年度～

関連事項：なし